

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 2 月 26 日

事業所名 みんなで笑顔「木のおうち」児童発達支援・放課後等デイサービス

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	7	4	0		
	2 職員の配置数は適切である	9	2	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	10	1	0		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	10	1	0	・毎朝のミーティング(午後出勤 の職員にも共有)	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	10	1	0	・事業所評価	・保護者の皆様の意見を大切に業務改善につ なげていきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	10	1	0	・ホームページで公開。	・継続していきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	4	4	3	・外部講師による業務改善。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	11	0	0	・外部講師を月に一度招いてい る。	・自分たちではなかなか気づけないことを外部 講師に別の視点でアドバイスを受けている。 個々の力を高めていきたい。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	0		・新人もベテランも自らを振り返ることが出来 ている。続けて行きたいと思う。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	5	4	2	・標準化されているか分からな い。	・アセスメントツールを確立していき、子供達の 状況を更に把握していけたらと思う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行って いる	10	1	0		・プログラムに沿った個別支援を充実させてい きたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	10	1	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	8	3	0	・長期休暇中は課題設定が出来 ていなかった。	・ミーティングが出来ないため、LINE等で情報 共有を行ってほしい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	7	4	0		・子供によって計画する内容が異なっている が、出来るだけ組み合わせたい。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	10	0	1	・正規職員もパート職員もその日 利用の子供達の支援を共通理 解し、一人ひとりにしっかり向き 合える体制になっている。 ・午後一番にリーダーを中心に 役割分担している。	・午前中に前日の振り返りを踏まえて当日支 援を決めている。役割分担は午後からのミー ティングで行う。継続していこうと思う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	8	2	1	・翌日、週明けに話している。	・翌日に振り返りを行うため、お休みの職員や パート職員との情報共有が課題となっている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1	0		・ミーティング時に使用している「支援シート」を 活用して記録を書いたり翌日の支援につなげ ようとしている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	6	5	0		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	6	5	0			
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	11	0	0		
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	10	1	0		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	1	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	4	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	7	0	・まだない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	7	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	5		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	4	1	・代表が参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	1	0	・送迎時の会話、連絡帳等	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	5	4		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	2	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	5	・父母の会はない。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	1	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	1	0	・「木のおうち新聞」	・継続していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	10	1	0	・個人情報が収納されている欄は施設。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	1	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	4		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	5	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	4	5		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	4	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	4	4	・身体拘束する子供がいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	2		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1	0		